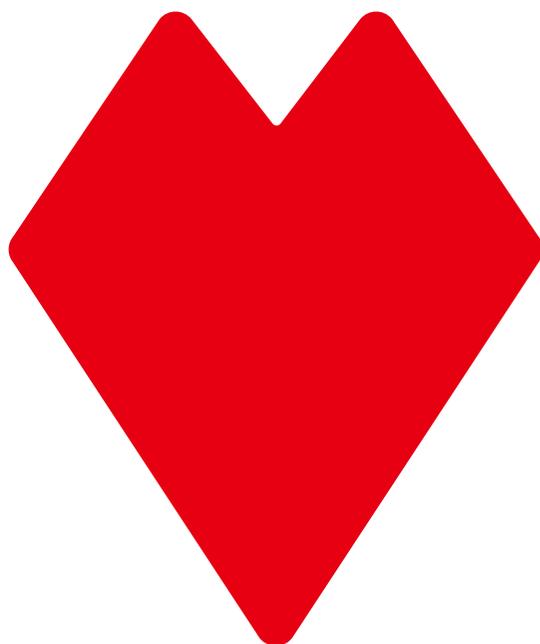


お口の恋人

LOTTE

LOTTE Sustainability Communication Book 2022



新しい価値創造への挑戦

「ロツテノベーション」

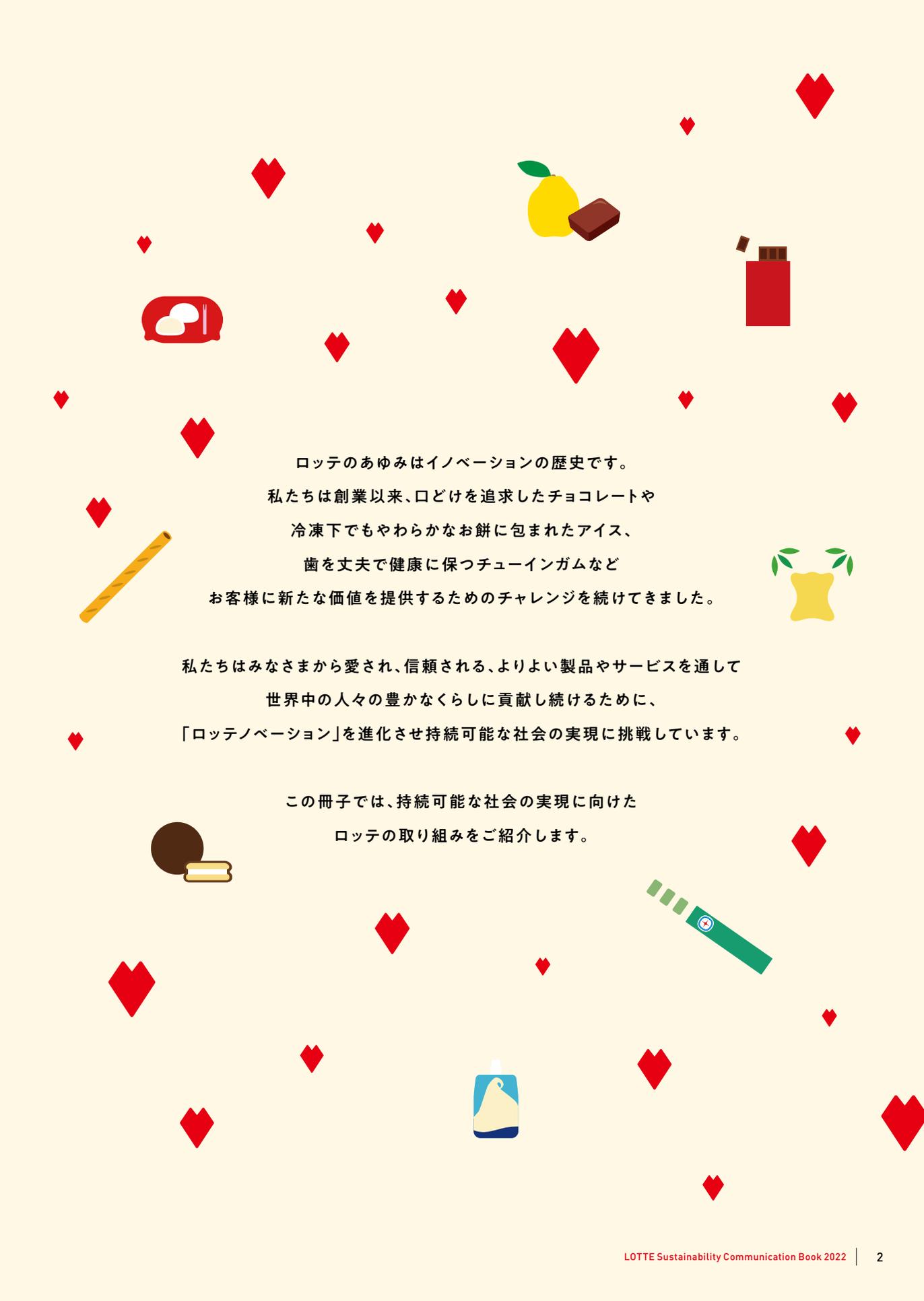
LOTTE Group Mission

私たちはみなさまから愛され、
信頼される、よりよい製品や
サービスを提供し、
世界中の人々の豊かな
暮らしに貢献します。

LOTTE Values

- ユーザー オリエンテッド
- オリジナリティ
- クオリティ

「愛される会社になりたい、愛される製品をつくっていききたい」という私たちが受け継ぐ創業の思いを言葉にしたものがロツテグループミッションであり、これを実現するためにロツテが大切にしてきた3つの価値がロツテバリューです。創業以来一貫して、ロツテバリューを全ての企業活動の基本とし、お客様をはじめ、地域や社会に新たな価値を提供することで、「愛される会社」を目指して成長を続けてきました。今日では、この新たな価値の創出を「ロツテノベーション」と名付けて受け継いでいます。



ロッテのあゆみはイノベーションの歴史です。
私たちは創業以来、口どけを追求したチョコレートや
冷凍下でもやわらかなお餅に包まれたアイス、
歯を丈夫で健康に保つチューインガムなど
お客様に新たな価値を提供するためのチャレンジを続けてきました。

私たちはみなさまから愛され、信頼される、よりよい製品やサービスを通して
世界中の人々の豊かな暮らしに貢献し続けるために、
「ロッテノベーション」を進化させ持続可能な社会の実現に挑戦しています。

この冊子では、持続可能な社会の実現に向けた
ロッテの取り組みをご紹介します。

トップメッセージ

あらゆる事業活動の基盤は
従業員一人ひとりであり、
価値創造ストーリー実現のためには
人材への投資が最も重要だと
考えています。

株式会社ロッテ
代表取締役社長執行役員

牛腸 栄一

激しく変化する世の中において、将来にわたり、株式会社ロッテが社会に必要とされる企業であり続けるために、事業活動を通じた持続可能な社会と環境の実現に貢献していく必要があります。これに取り組むために、2018年に5つのマテリアリティ(重要課題)「食の安全・安心」「食と健康」「環境」「持続可能な調達」「従業員の能力発揮」を整理し、それぞれの課題解決のためにESG中期目標を定めて取り組みを進めてきました。これによって、国連の持続可能な開発目標(SDGs)の実現に貢献するとともに、(株)ロッテの持続的な成長を実現していきたいと考えています。

このように取り組みを体系化する以前から、私たちはイノベーションによる事業活動を通じた社会課題の解決に挑戦してきました。一例を挙げると、1997年発売の「キシリトールガム」は、お菓子がむし歯の原因になるというそれまでの常識を覆し、チューインガムで歯を丈夫で健康に保つという新しい価値を提供し、さらに「むし歯のない社会

へ。」という世の中の課題解決にも貢献してまいりました。すなわちこれは、社会課題の解決と同時に経済価値を創出するCSV(共通価値の創造)の考え方を具現化した取り組みです。今日では、このようなイノベーションによる社会課題解決への挑戦を「ロッテノベーション」と名付けて、より一層推進しています。

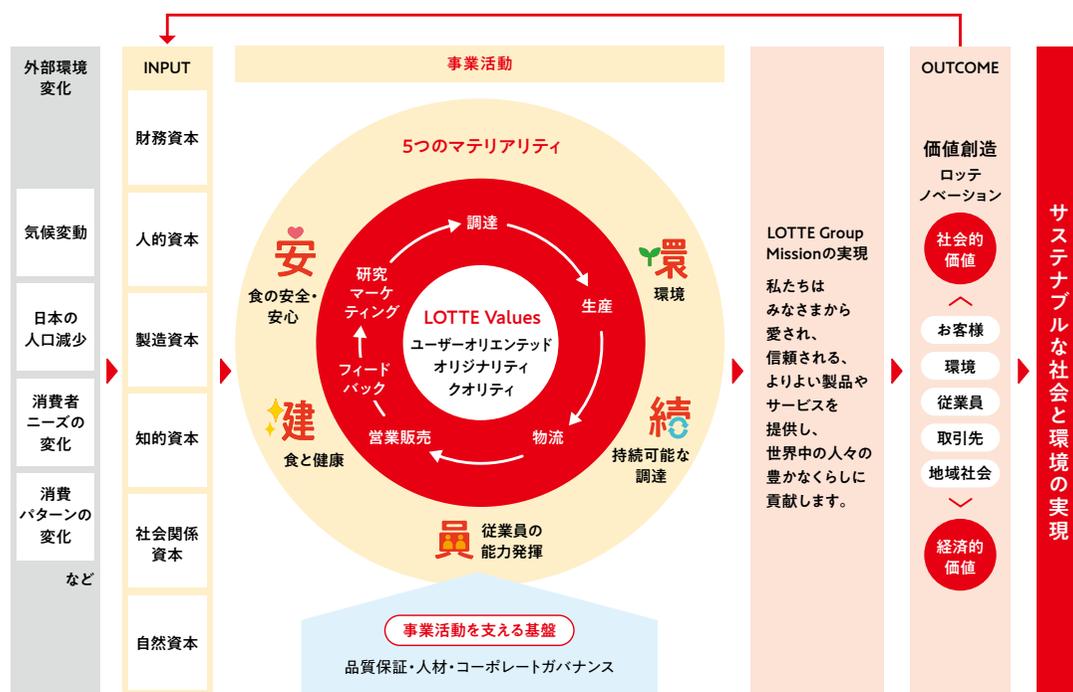
有難いことに、私たちのこれまでの取り組みをご評価いただき、消費者庁が主催する「令和3年度 消費者志向経営優良事例表彰」において「消費者庁長官表彰」(特別枠)を受賞することができました。具体的には、歯科医師会や自治体と連携してキシリトールを配合したチューインガムを用い、「ガムはむし歯になりやすい」という概念を覆すむし歯予防に取り組んでいること、チューインガムを通じて「噛むこと」による口腔機能の改善を図り、介護予防・認知症予防など健康寿命の延伸を目指す取り組みもやっていることが評価され、受賞となりました。今回の受賞は、私たちの取り組みをご

評価いただいたのと同時に、これまで以上に持続可能な社会の実現に貢献せよという期待だと捉えており、大変身の引き締まる思いです。引き続き、ロッテノベーションに挑戦し、社会課題の解決に貢献してまいります。

(株)ロッテの価値創造ストーリーは、ロッテノベーションそのものであり、創業の精神として受け継いできた3つの価値ロッテバリュー「ユーザーオリエンテッド(お客様第一)」「オリジナリティ(獨創性)」「クオリティ(最上の品質)」を原動力に、ミッション「私たちはみなさまから愛され、信頼される、よりよい製品やサービスを提供し、世界中の人々の豊かなくらしに貢献します。」の実現を通じて持続可能な社会と環境の実現に貢献するものです。事業活動を通じてマテリアリティに取り組みこつて産み出した社会的価値と経済的価値をもとに、ブランドを磨き、成長のために人材や生産設備へ

投資を行い、さらに新たなロッテノベーションによる価値創造に挑戦していきます。あらゆる事業活動の基盤は従業員一人ひとりであり、価値創造ストーリー実現のためには人材への投資が最も重要だと考えています。今年度より、計画的な次期経営人材育成のための新たな選抜型研修をスタートしました。また、コロナ禍を機にテレワーク勤務が定着したことで、それに合わせて本社の一部をフリーアドレスオフィスにする改装を行いました。これによって、テレワーク勤務で希薄になりがちなコミュニケーションを補い、従来よりも生産性の高い新しい働き方を実現していきます。

これからも(株)ロッテは、持続可能な社会と環境の実現に向けてロッテノベーションで取り組んでまいりますので、どうぞご期待ください。ステークホルダーの皆様には、今後とも変わらぬご支援のほどお願い申し上げます。



ロッテのサステナビリティ

ロッテノーションで 持続可能な未来の実現をめざす

ロッテが目指す持続可能な未来を実現するために、事業活動が社会や環境に及ぼす影響やステークホルダーからの期待をもとに、「未来のためにロッテが大切にしている5つのこと」(マテリアリティ / 重要課題)を定めました。次ページ以降で、これら5つのことにロッテノーションで取り組んでいる具体的な内容をご紹介します。



未来のためにロッテが大切にしている5つのこと

安

大切にしていること 1

食の安全・安心



建

大切にしていること 2

食と健康



景

大切にしていること 3

環境



結

大切にしていること 4

持続可能な調達



員

大切にしていること 5

従業員の能力発揮



安

大切にしていること 1

食の安全・安心



(株)ロッテは、創業以来大切にしてきた3つの価値(ロッテバリュー)の一つにクオリティ(最上の品質)を掲げています。製品づくりにあたっては、安全・安心で高品質であるはもちろん、「楽しさ」「おいしさ」「やすらぎ」の付加価値が感じられることも不可欠であると考えています。それら全てを実現すべき「品質」であるとみなし、全従業員で取り組んでいます。

新品質保証システムLOTTE ADVANCE (ロッテアドバンス)

(株)ロッテの全ての工場において、国際的な食品安全認証であるGFSI*1承認スキーム(FSSC22000*2/BRC*3)認証を取得しています。また、さらなる品質の向上と高い安全性の確保を目指し、2023年度までに独自の新品質保証システムLOTTE ADVANCE(ロッテアドバンス)を構築し、国内外全ての開発・生産拠点に展開することを目標に掲げています。

*1 GFSI: 世界食品安全イニシアチブ(Global Food Safety Initiative)の略。食品安全システムの継続的改善を目的に2000年5月に設立された国際的な非営利団体。

*2 FSSC22000: 食品安全マネジメントシステムに関する国際規格であるISO22000を追加要求事項で補強した世界標準の食品安全規格。

*3 BRC: 英国小売業協会(British Retail Consortium)の略。同協会が食品安全のための第三者認証のスキームを運用している。



サプライチェーン全体で品質に取り組む

(株)ロッテでは、工場だけでなくサプライチェーンの各段階で品質の向上に取り組んでいます。安全で高品質な製品をお届けするために、製品開発の段階から品質に関するリスク評価システムを導入しています。さらに、原材料は、ロットごとに検査・管理しており、トレーサビリティを確保しています。そして、製品パッケージや販促物、広告物などの表示については、関連法規を遵守することはもちろん、分かりやすく誤認を与えないよう、複数の担当者がチェックしています。また、お客様の声を大切にしており、経営層および社内関連部署で共有し、既存製品の改良や新製品の開発などにつなげています。

サプライチェーン



全従業員で「みんなで品質保証」に取り組んでいきます

私は、お客様に正しい情報を誤認なくお伝えするために、商品や広告物などの表示の確認を行っています。安全・安心な製品やサービスをお届けするためには、正しい情報をお伝えすることももちろんですが、サプライチェーン全体で品質保証に取り組むことが欠かせません。品質保証部だけの取り組みでは実現できませんので、「みんなで品質保証」を合言葉に、全従業員に品質保証に対する意識を高め、自分ゴト化してもらうための社内情報発信を地道に進めています。お客様が安心して購入していただけるよう、これからも全従業員で「みんなで品質保証」に取り組んでいきます。



大谷絵里子

株式会社ロッテ
品質保証部表示課 課長



大切にしていること 2

食と健康



(株)ロッテは、創業以来培ってきた知見や技術を活かし、地域や社会に新たな価値を提供することで、成長し続けてきました。例えば、1997年発売の「キシリトールガム」は、歯を丈夫で健康に保つという新しい健康価値を生み出し、社会に貢献してきました。これからも(株)ロッテが大切にしてきた「おいしさ」を軸に、食で健康価値を提供し、社会課題の解決に貢献していきます。

* 新型コロナウイルス感染拡大状況に応じて、工場見学を休止する場合があります。



工場見学をリニューアル

(株)ロッテの浦和工場では、工場見学を受け入れています*。工場見学では、製造の現場を実際に見学していただくとともに、SDGsへの貢献の取り組みなどをご説明しています。新型コロナウイルス感染拡大防止のため、2020年2月より2022年4月まで工場見学を休止しておりましたが、休止期間中に来場者様へ感動体験をさらにお届けできるよう見学施設の大規模リニューアルを行いました。生まれ変わった浦和工場の見学施設「おかしな学校」にぜひお越しください。

出張授業をスタート

(株)ロッテでは、小学校へのお出張授業を行っています*。製品開発をする上で大切な考え方などを楽しく学んでいただき、子どもたちにはおかしな開発のワークを通して、新しいアイデアを考えてもらうなど、創造的思考力の育成につながる授業を行っています。

* 授業実施の際には換気・消毒など新型コロナウイルス感染拡大対策を十分に講じています。



ファンを増やすことも私の使命

(株)ロッテでは、工場見学と教育支援を通じて食育活動に取り組んでいます。工場見学は「おかしな学校」と名付けて、体験しながら学ぶことができる仕掛けづくりにこだわりました。また、教育支援では、噛むことの大切さを楽しみながら学べる教材提供や、おかしやアイスクリームの商品開発を題材にして課題解決や願いの実現を考えるワークを通じ、創造的思考力を育む出張授業を行っています。子どもたちが楽しく学ぶことができる食育活動を通じて、食の楽しさや重要性を伝えるとともに、ロッテを好きになっていただき、ファンを増やすことも私の使命と考えて取り組んでいます。



池田なつき

株式会社ロッテ
ESG推進部食育推進課 課長



大切にしていること 2

食と健康



その歯と100年。 キシリトールプロジェクト

キシリトールが歯と口の健康に与える良い影響についての研究と普及を通して、人々の豊かな生活に貢献することを目的に、「その歯と100年。キシリトールプロジェクト」を2020年にスタートしました。予防歯科の先進国であるフィンランドにならない、自治体や地元歯科医師会とともに「歯磨き・フッ化物・キシリトール」に「定期的な歯科健診」を加えた口腔ケア習慣を普及させる活動を行っています。第1弾として、福島県会津若松市にご理解いただき、市内の保育園および幼稚園にキシリトール入りのタブレットやラムネと、専用サーバーを提供し、幼児期からの口腔ケア習慣の定着を促す取り組みを行いました。



噛むことの普及

チューインガムで創業した(株)ロツテは、今まで歯と口に関するさまざまな研究を重ね、噛むことが全身の健康と密接に関わっていることが分かってきました。「噛むこと」が健康に与える良い影響は、口腔機能の維持などを通じた健康寿命の延伸やウェルビーイング(充実した人生)といった様々な社会課題の解決に活かすことができると考えており「噛むこと」の普及を通して人々の豊かな生活に貢献することを目指しています。そして、「噛むこと」のソリューションツールとして、チューインガムの普及にもつなげています。この取り組みを推進するために、「噛むこと」の研究と成果発信を専門に行う噛むこと研究部を設置しています。



世界中の人々の歯と口の健康に貢献していきたい

私は、キシリトールガムの製品開発やプロモーション活動を行っています。私たちの調査によると、フィンランドでは94%の人が歯の健康のためにキシリトールを摂取した経験があり、18歳未満の子供がいる家庭の67%が日常的にキシリトールを摂取しており、キシリトールが生活習慣として根付いていることが分かりました。このフィンランドの習慣に注目し、日本の人々の歯と口の健康に貢献するために「その歯と100年。キシリトールプロジェクト」をスタートしました。また、キシリトールガムは日本だけでなく、海外でも販売しており、世界中の人々の歯と口の健康に貢献していきたいです。



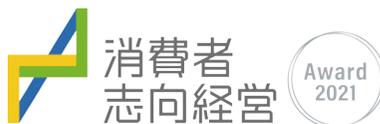
山本賢一

株式会社ロツテ
マーケティング本部
ブランド戦略部
キシリトールブランド課 課長

「消費者志向経営優良事例表彰」において「消費者庁長官表彰」を受賞



(株)ロッテは、消費者庁が主催する「令和3年度 消費者志向経営優良事例表彰」において「消費者庁長官表彰」(特別枠)を受賞しました。消費者庁が主催する同表彰は、消費者志向自主宣言を公表し、その宣言に基づいた優れた取り組みを行っている企業を表彰するものです。今回、(株)ロッテがマテリアリティ「食と健康」としてESG中期目標を定めて取り組んできたキシリトールや「噛むこと」の研究や啓発などの活動が高く評価され、受賞にまりました。取り組みをご評価いただいたと同時に、これまで以上に持続可能な社会の実現に貢献せよという大きな期待だと真摯に受け止め、引き続き「食と健康」の取り組みによる社会課題の解決に貢献していきます。



選考理由(消費者庁発表)

歯科医師会や自治体と連携して「キシリトール」を配合したチューインガムを用い、「ガムはむし歯になりやすい」という概念を覆すむし歯予防に取り組んでいる。また、チューインガムを通じて「噛むこと」による口腔機能の改善を図り、介護予防・認知症予防など健康寿命の延伸を目指す取組も行っている。

健康という社会課題の解決に貢献していきたい

私は、噛むことについての研究と、その成果の発信を担当しています。噛むことは全身の健康と関連していることが研究の結果から分かっており、人々の健康な生活に貢献できる可能性を感じています。先日、シニアの方々に対して、噛むことについて研究結果をもとに直接お伝えする機会がありました。参加した方から「噛むことの良さを再認識できた」「これからの生活で噛むことを意識していきたい」と前向きな言葉を頂け、とてもやりがいを感じました。これからも、噛むことの研究と発信を通じて、健康という社会課題の解決に貢献していきたいと考えています。



松井美咲

株式会社ロッテ
中央研究所噛むこと研究部



大切にしていること **3** 環境



地球環境の保全は生命の存続に係わる最重要課題であり、私たちのビジネスも地球環境の恩恵を受けて成り立っています。こうした考えのもと、持続可能な地球環境の実現に貢献することを重大な責任と捉えています。中でも脱炭素とFLW（食品ロスおよび食品廃棄物）の削減を重点的に取り組む課題と位置付け、環境負荷の軽減に取り組んでいます。



脱炭素に向けて

(株)ロッテでは、2050年度までにカーボンニュートラル（Scope1、2）を達成する目標を掲げています。これを達成するために、エネルギーの効率的使用と再生可能エネルギー導入の両輪で取り組んでいます。特に、エネルギー起源CO₂排出量の大部分を占める工場では、スマートファクトリープロジェクトを進めています。センサーを用いて生産工程から様々なデータを取得し、それらをもとにAIを用いて生産工程を最適化して、エネルギーの抜本的な効率化に挑戦しています。再生可能エネルギーの導入は、2019年4月より(株)ロッテの本社ビル(新宿区)で使用している電力を全量水力発電由来の電力に切り替えました。さらに、国内の工場でも順次導入を進めているほか、ポーランドのロッテウェデルでは2020年2月より再生可能エネルギーである風力発電由来の電力に切り替えました。今後も、再生可能エネルギーの導入によって温室効果ガスの排出を抑制するとともに、再生可能エネルギーの普及にも貢献していきます。



FLW(食品ロスおよび食品廃棄物)の削減

FLWを削減するためには、FLWを発生させないことが最も重要です。そのために、(株)ロッテではAIを活用した需要予測の実現に向けた検証をスタートさせました。夏季のアイス販売予測の誤差率を低減することに成功したため、今後は適応範囲を拡大していきます。需要と供給のズレを最小化することで、過剰在庫や返品によって生じるFLWの削減を推進しています。その他にも、賞味期限の延長や年月表示化、生産工程でのロス削減などにも取り組んでいます。さらに、どうしても余ってしまったものをFLWにしないよう、食の有効活用にも取り組んでいます。食べ物に困っている人や福祉施設などに食品を無償で提供する取り組みをフードバンクといい、私たちはこの活動に賛同し、NPO法人を通じて自社製品寄贈の協力を行っています。この取り組みは「おいしい」「たのしい」という食の喜びを伝える一助となるだけでなく、食の有効活用にもつながる有意義な取り組みと考え、今後もフードバンク活動への協力を継続していきます。

📊 アイスクリーム既存製品の販売予測検証結果





容器包装のリユースへ挑戦

2021年より、資源循環の取り組みの一環として、Loopに参加し、キシリトールガムを繰り返し使用できるリユース可能な容器で販売しています。Loopは、これまで使い捨て容器で販売されていた食品や日用品をリユース可能な容器で販売する循環型ショッピングプラットフォームです。「捨てるという概念を捨てよう」というミッションを掲げるソーシャルエンタープライズであるLoop Japan合同会社（ループ・ジャパン）がLoopを展開しています。ループ・ジャパンはLoopを通じて使い捨てプラスチックを削減するの

みならず、「使い捨て文化」からの脱却を目指しています。Loopはすでに世界4カ国（米、仏、英、加）で展開されており、2021年より日本でサービスを開始しました。キシリトールガムの容器は、安全性や耐久性等を考慮しステンレスを選択し、表面のサテン仕上げやレーザーによる刻印などデザインにもこだわって製作しました。最もこだわったのが、使いやすさで、パッキンを使用することで簡単な開け閉めを実現しました。

気候変動への対応

（株）ロッテの事業は、地球環境の恩恵を受けて成り立っており、気候変動が事業活動に与える影響が大きく、その対応は重要な経営課題であると認識しています。2021年5月にはTCFD*¹への賛同を表明し、賛同企業や金融機関が議論を行うTCFDコンソーシアム*²に加入しました。TCFDの提言に基づいたリスクと機会の分析によるレジリエンス強化および情報開示を進めています。情報開示の詳細はサステナビリティデータブックのP17をご覧ください。



*1 TCFD:気候関連財務情報開示タスクフォースの略。G20からの要請を受け金融安定理事会（FSB）が2015年に設立。企業に対し、気候変動関連リスクおよび機会について開示することを推奨する提言をまとめた。

*2 TCFDコンソーシアム:企業の効果的な情報開示や、開示された情報を金融機関等の適切な投資判断につなげる取り組みについて議論する場として、2019年に設立。

次世代の持続可能な工場を目指す

私たち生産戦略部は、工場で使用するエネルギーの効率化や工場から排出する廃棄物の削減などの環境負荷低減を推進しています。例えば、2021年はキシリトールガムなどの主要なボトルガム商品に使用しているプラスチックボトル容器について、胴体部を薄くすることで、プラスチック使用量の削減を行いました。また、スマートファクトリープロジェクトも私たちの部署で進めており、AIやロボットなどの技術を応用することで、エネルギーの最適化とともに、将来は自動化による省人化や設備トラブルの予知なども実現し、次世代の持続可能な工場を目指しています。



木田孝一

株式会社ロッテ
生産本部生産戦略部
生産戦略課 主査

持続可能な調達



(株)ロッテは、高品質な製品・サービスを安定的にお客様にお届けするためには、安全・安心であることはもちろん、環境や社会にも配慮した、持続可能な原材料の調達が重要だと考えています。これを実現するため、取引先や業界内外のステークホルダーと連携して、サプライチェーン全体で持続可能な調達活動を推進しています。



カカオ豆の持続可能な調達に取り組むフェアカカオプロジェクト

カカオ豆の生産地は農家の貧困や児童労働、森林破壊等、様々な課題を抱えています。チョコレートが主力製品である(株)ロッテにとって、カカオ豆の持続可能な調達は重要な課題であり、これまで調達活動を通じた様々な支援を行ってきました。これらの持続可能なカカオ産業の実現に貢献する活動をフェアカカオプロジェクトと名付けて推進しています。フェアカカオプロジェクトでは、生産地が抱える様々な課題のうち児童労働の撤廃に向けた取り組みからスタートしています。これまで行っていた地域指定購入による支援に加え、現地のパートナーと協力して児童労働のモニタリングを行っています。地域指定購入は、調達する生産地域を指定し、そこから調達するカカオ豆に一定の割増金(プレミアム)を上乗せして支払うもので、割増金はその地域における児童労働モニタリングに使われます。このように調達したカカオ豆をフェアカカオと名付けて、その調達割合の拡大をESG中期目標で掲げています。

児童労働モニタリング

(株)ロッテがカカオ豆の生産地で、児童労働の撤廃に向けて取り組んでいるのが児童労働モニタリングです。現地のパートナーと協力して児童労働のモニタリングシステムであるCLMRS*を運用しています。CLMRSは子どもが学校に通うことの大切さや児童労働の定義などについての啓発からスタートします。そして、児童労働を発見・是正することはもちろん、モニタリングによって地域ごとに異なる課題を明らかにし、フォローアップにより継続的な改善を行うことを目的としています。

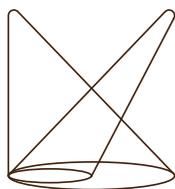
* CLMRS: 児童労働監視改善システム (Child Labor Monitoring and Remediation System) の略。カカオ産地で児童労働撤廃のための活動を推進するNPO団体の International Cocoa Initiative (ICI) が開発したシステム。

CLMRS概要



Dari K(株)がグループに加わりました

2022年1月にDari K(株)が(株)ロッテのグループ会社に加わりました。Dari K(株)は2011年に創業したカカオ豆からチョコレートを手作りするBean to Bar企業です。インドネシアのスラウェシ島でカカオ豆生産者・消費者・環境の全てを笑顔にする「All-win Chocolate」のコンセプトを掲げてサステナブルなチョコレートづくりを行ってきました。Dari K(株)がスラウェシ島でカカオ豆生産者と一緒に取り組んできたことを、(株)ロッテのフェアカカオプロジェクトにも応用することで、取り組みを加速させていきます。また、Dari K(株)はフードテックの開発にも力を入れており、「フルーツ発酵技術」やポリフェノールの損失を抑えた「特殊焙煎技術」を確立するなど、カカオ豆の可能性を広げることに注力しています。チョコレートという枠を超えて、カカオ豆の新たな価値創出にも共同でチャレンジしていきます。



dari K



責任あるサプライチェーンの構築

(株)ロッテでは、調達方針に基づき、持続可能な調達活動を推進しています。調達方針には、倫理的な取引や品質、安全性に関してはもちろん、サプライチェーンにおける環境や社会への配慮についても掲げています。しかしながら、サプライチェーンのグローバル化に伴い、私たちだけでサプライチェーン全体における環境や社会への影響を把握・管理することは難しく、サプライヤーと協働して取り組むことが不可欠です。そこで、2019年4月に「株式会社ロッテサプライヤーガイドライン」を制定しました。本ガイドラインを通して、サプライヤーと基本的な価値観を共有し、さらには対話を通じてより有益な関係を構築して、ともに持続可能な社会の実現に貢献することを目指しています。また、本ガイドラインの説明会を定期的実施することで、さらなる理解促進と関係構築を進めています。

All-winのチョコレートでカカオ産業全体をサステナブルに

私はこれまで、インドネシアでカカオ豆の生産者と向き合い、小さなスケールではありますが、生産者、消費者、環境のみんなが笑顔になれるAll-winのチョコレートを作り届けてきました。しかし、カカオ産業全体をサステナブルなものに変えていくためには、大手と組んでスケールとスピードをアップする必要があると感じており、縁あってロッテと一緒に仕事をすることになりました。All-winのチョコレートでカカオ産業全体をサステナブルに変えていくスタート地点に立ったと、今はとてもワクワクしています。これからのDari Kとロッテにどうぞご期待ください。



吉野慶一

Dari K株式会社
代表取締役／創業者
株式会社ロッテ 執行役員



大切にしていること **5**

従業員の能力発揮



事業を支える最も重要な基盤は人材です。(株)ロッテは、多様な従業員一人ひとりが持てる力を存分に発揮し、心身ともに健康でいきいきと活躍できる環境を整えることで、企業の持続的な発展を目指しています。

ダイバーシティ&インクルージョン

(株)ロッテでは、多様な従業員の活躍がロETTEノベーション創出の原動力であり、企業競争力の源泉であると考えダイバーシティ&インクルージョンを推進しています。2021年1月には、イクボス*企業同盟に加入し、社長によるイクボス宣言を行いました。また、全管理職を対象にダイバーシティマネジメント研修を実施し、企業文化の醸成を進めています。女性活躍推進については、次世代の管理職候補である若手女性社員の育成を目的として、食品企業6社合同女性活躍推進セミナーを2016年より毎年実施しています。さらに、誰もが安心して働ける職場環境を実現するために、人権方針で差別の禁止を明文化しており、これに基づいて人権研修およびハラスメント防止研修を行っています。障がい者やLGBTQに関する理解促進研修も実施し、マイノリティの活躍支援にも取り組んでいます。

*イクボス: 部下のキャリアやライフ・ワーク・バランスを応援しながら、組織としての効果を出しつつ、自らも仕事と私生活を楽しむ上司(経営者・管理職)のこと



ライフ・ワーク・バランス

(株)ロッテでは、従業員が心身ともに健康でいきいきと活躍するためには、ライフ・ワーク・バランスの実現が不可欠であると考えています。そのために、柔軟な働き方ができる様々な制度の導入やICTインフラの整備を進めており、ライフステージにかかわらず多様な人材が活躍できる職場環境を整えています。さらに、これらを活用し、生産性向上による労働時間削減に取り組み、ライフ・ワーク・バランスの実現を目指しています。

柔軟な働き方ができる制度

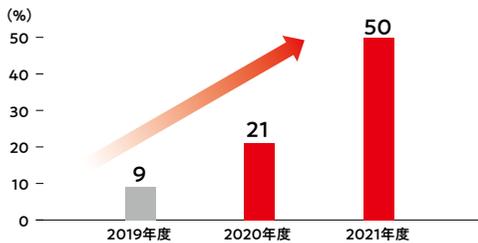
- テレワーク勤務制度
- スライドワーク(時差出勤)制度
ライフスタイルに合わせて、始業および終業時間を選択できる制度
- フリーアドレスオフィス
固定席を設定せず、その日の仕事に合わせて席を選んで働くことができるオフィス
- 有給休暇の取得促進
リフレッシュ休暇制度など



ライフイベントと仕事の両立

(株)ロッテでは、出産や育児などのライフイベントを迎えた際も安心して働き続けられるよう、様々な支援を行っています。出産前には、「出産・育児面談シート」を使って上司と面談を行い、体調把握や引き継ぎに関する相談を行います。育休中には、同時期に育児休業を取得している従業員とオンラインで交流できる場を用意しています。復帰後には、上司とともに参加する育休復帰ワークショップを設けており、育児と仕事の両立や時短勤務について職場の理解が得られやすい環境を整えています。忙しい日々の中で自身を見つめ直しキャリアやビジョンを描くきっかけにもなっています。また、社内の子育てネットワーク構築を目的としたランチセッションを定期的で開催することで、育児の悩みを共有したり、情報交換したりしています。ライフイベントが女性だけのものという意識変革にも力を入れ、男性の育児休業制度の周知や社内研修も行っています。

男性従業員の育児休業取得率



集計対象 株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

健康経営

(株)ロッテでは、会社の発展は従業員の健康とともにあると考えており、従業員が心身ともに健康に働ける職場環境づくりに取り組んでいます。なかでも、「健康状態の把握と改善推進」「運動習慣支援」「受動喫煙防止と禁煙サポート」を重点取り組み項目に設定して、様々な施策を実施しています。例えば、「健康状態の把握と改善推進」では、定期健康診断の全員受診を目指すとともに、二次健康診断対象者へのフォローや心身に関する健康維持のための相談体制の整備を行っています。また、「運動習慣支援」では、社内ウォーキングイベントやスポーツクラブとの法人契約などを行っています。さらに、これらの重点取り組み項目に紐づく評価指標を定めており、それらをモニタリングしながら改善することで、実効性のある取り組みを行っています。(株)ロッテは、これらの健康経営の取り組みが評価され、「健康経営優良法人認定制度(経済産業省)」に基づく、健康経営優良法人に認定されました。



ダイバーシティによってロッテノベーションを後押しする

私たち、いきいき活躍推進課の役割は、ダイバーシティによってロッテノベーションを後押しすることです。その取り組みの一つとして、男性育休の取得推進に力を入れています。WEB社内報で男性育休取得者と職場メンバーの体験談を紹介し、しごと育児両立ガイドブックや書籍を配布した結果、ここ2年で取得率は大きく飛躍しました。ライフイベントが女性だけのものという意識を変えとともに、業務の属人化を解消し、職場のチームワーク向上にもつながっていると実感しています。ロッテの従業員誰もがいきいきと働ける環境作りを目指しています。



望月真里子

株式会社ロッテ
人事部いきいき活躍推進課
課長

事業活動の基盤

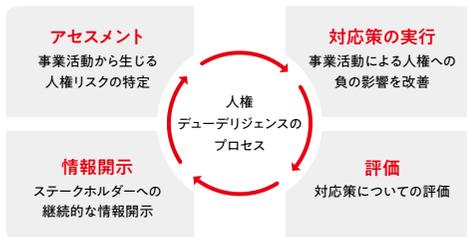
「お口の恋人」というメッセージには、世界中の人々から愛される会社でありたいという願いが込められています。(株)ロッテは、人々から愛される企業であるために、法規制の遵守はもとより、公明正大な企業運営をするべくコンプライアンスやリスクマネジメントに取り組んでいます。また、企業活動に関わるあらゆる人々の人権を尊重した経営を推進することが極めて重要との認識のもと、人権方針を定め、さまざまな取り組みも行っています。

人権の尊重

(株)ロッテおよび子会社では、人権の尊重を前提に全ての企業活動を行っています。直接的な人権侵害を一切行わないことはもちろん、ステークホルダーと協力し、事業活動が間接的に人権侵害に加担することがないように努めています。サプライチェーン全体で影響を受ける人々の人権尊重のため、国連の「ビジネスと人権に関する指導原則」の手順に従い、人権デューデリジェンスの実施を進めています。また、従業員に対しては人権研修を実施しています。差別の禁止など人権に関する基本的な理解を促進するとともに、ケーススタディを用いて事業活動において具体的に注意すべき事項についても説明しています。さらに、あらゆる差別およびハラスメントを禁止した人権方針に従って、ハラスメント防止研修も実施しています。パワーハラスメントやセクシャルハラスメントはもちろん、性的指向および性自認に関するハラスメント(SOGIハラスメント)についても行わないよう説明しています。

コンプライアンス

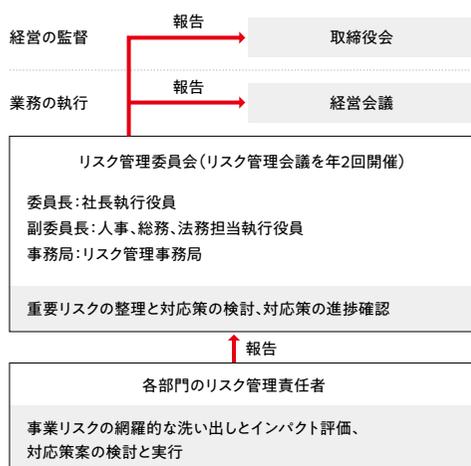
全ての役員と従業員全員が理解し、これに基づいて業務を行う指針として行動憲章ロッテグループウェイを制定しています。ホームページなどで公開しており、倫理的で誠実な事業活動を社会にお約束しています。企業理念であるロッテグループミッションとロッテバリューを実現するための行動指針として位置付けられています。また、内部通報制度も整備しており、ハラスメント等の人権問題、経費不正や情報持ち出し等の不正行為、法令違反および社内規程違反等のコンプライアンス違反行為全般について、電話やメール、手紙などで従業員からの通報や相談を受け付けており、被害者がいる場合には速やかに救済を行っています。さらに業務執行から独立した内部監査組織である監査部が、当社および子会社の業務全般を対象に法令や社内規程の遵守状況について監査を行っています。従業員に対しては定期的な研修を実施しているほか、コンプライアンスガイドブックを配布してコンプライアンス意識の向上を図っています。



リスクマネジメント

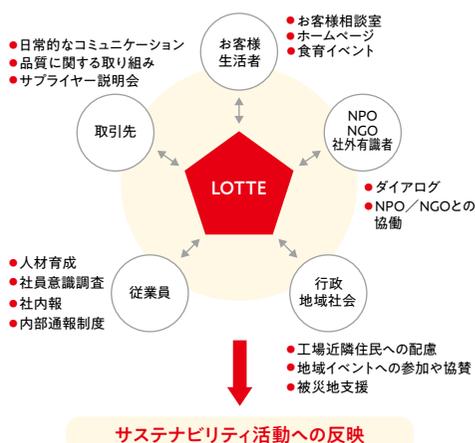
(株)ロッテでは、リスクの把握と対応を適切に行うことで、脅威の極小化に努め、事業の持続性を図っています。事業に関わるあらゆるリスクはリスク管理委員会を中心とするリスク管理体制において管理しています。各部門にリスク管理責任者を配置し、事業リスクの網羅的な洗い出しとインパクト評価を行っています。リスク管理委員会は各部門で洗い出されたリスクと対応策案についてリスク管理責任者より報告を受け、インパクトの高い重要リスクとその対応策を検討しています。経営会議と取締役会は検討内容について報告を受け、リスク管理体制のモニタリングを行っています。

また、万が一リスクが実現した際には、リスク管理委員会が緊急対策本部の役割を担い、速やかに対応を指揮し、被害を最小限に抑えます。



サステナビリティ推進体制

(株)ロッテESG推進部の担当執行役員が責任者、同部サステナビリティ推進課が事務局となり、関連部署や子会社と連携してサステナビリティ活動に取り組んでいます。また、関連する方針および戦略の策定やESG中期目標の進捗管理も同課が行っており、関連部署と連携して取り組みを推進しています。ESG中期目標の進捗および、サステナビリティに関する重要事項について、担当役員より経営会議および取締役会に報告しています。また、社外とのコミュニケーションを通してステークホルダーからの期待や懸念を把握し、サステナビリティ経営に反映する役割も同課が担っており、社外有識者と定期的にダイアログを行うことで、社外の視点を取り入れるようにしています。



→ ステークホルダーとの対話に資するよう
分かりやすい開示を心がけています

飯田智晴

株式会社ロッテ
ESG推進部サステナビリティ推進課 課長



私の部署では、サステナビリティ活動の推進に加え、非財務情報開示も担当しています。非財務情報開示にあたっては、ステークホルダーとの対話に資するよう分かりやすい開示を心がけています。昨年までは、あらゆるステークホルダー向けにサステナビリティレポートを製作しておりましたが、今年は読者の方が目的に合わせて選べるように役割の異なる2媒体を製作しました。当社の価値創造ストーリーやサステナビリティ活動のトピックを分かりやすく解説したコミュニケーションブック(本冊子)と、より詳細な非財務情報を検索しやすく網羅的に掲載したデータブックです。今後も分かりやすい非財務情報開示を進めてまいりますので、どうぞご期待ください。

2028

ESG 中期目標

マテリアリティ	取り組み項目	指標	2023年目標	2028年目標	貢献するSDGs
1 食の安全・ 安心 安	さらなる 品質向上	GFSI承認スキーム (FSSC22000/BRC)	国内外全工場 認証維持	国内外全工場 認証維持	
		ロッテ新品質保証システム LOTTE ADVANCEの導入	国内外開発・ 生産拠点へ 導入完了	国内外開発・ 生産拠点で 継続運用	
2 食と健康 建	健康	「噛むこと」を意識して 実践している人の割合(国内)	35%以上	50%以上	 
	食育	歯と口の健康のためにキシリトールを 生活に取り入れている人の割合(国内)	—	50%以上	
3 環境 農	低炭素社会	エネルギー起源CO ₂ 排出量 (Scope1、2)削減率(2019年度比)	—	23%以上削減 (2050年目標 カーボンニュートラル)	 
	循環型社会	FLW(食品ロスおよび食品廃棄物) 発生量削減率(2019年度比 原単位)	—	50%以上削減	
		生産工程から排出された 廃棄物のリサイクル率	99%以上 (国内)	99%以上 (国内+海外)	
4 持続可能な 調達 結	カカオ豆	フェアカカオ使用率	—	100% (2025年目標 ガーナ産を100%)	   
	パーム油	第三者認証油使用率	100% (国内)	100% (国内+海外)	
	紙	環境に配慮した紙使用率(容器包装)	100% (国内)	100% (国内+海外)	
5 従業員の 能力発揮 員	ダイバーシティ	女性管理職比率(国内)	10%以上	20%以上	 
	働き方改革	一人当たり年間総労働時間(国内)	1,850時間以下	1,800時間以下	
	従業員 エンゲージメント	働きがいを感じている社員割合(国内)	80%以上	80%以上維持	

株式会社ロッテ サステナビリティデータブック2022に関連するSDGsターゲットについて掲載しています。

ESG中期目標 実績ハイライト



1. 食の安全・安心

GFSI承認スキーム(FSSC22000/BRC)

2020年度 > 認証維持*

2021年度 > 認証維持*

2023年目標 > 国内外全工場で認証維持

2028年目標 > 国内外全工場で認証維持

ロッテ新品質保証システムLOTTE ADVANCEの導入

2020年度 > グループ共通基準の骨子完成

2021年度 > グループ共通基準の国内案完成

2023年目標 > 国内外開発・生産拠点へ導入完了

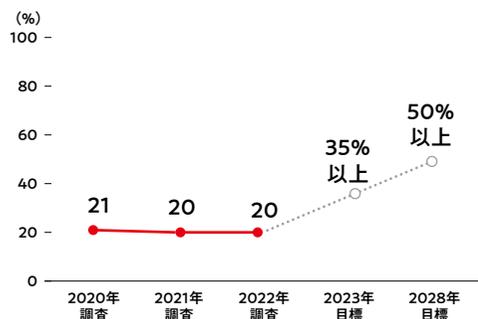
2028年目標 > 国内外開発・生産拠点で継続運用

*株式会社ロッテ、株式会社メリーチョコレートカンパニーおよび海外子会社の生産拠点が対象



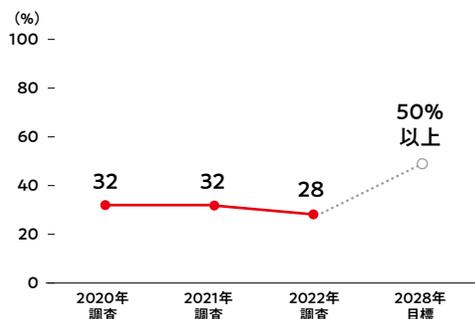
2. 食と健康

「噛むこと」を意識して実践している人の割合(国内)



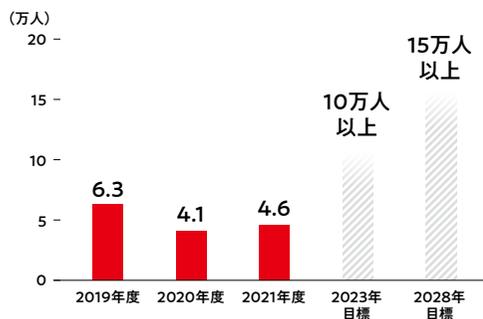
3,000人を対象としたインターネット調査(ロッテ調べ)

歯と口の健康のためにキシリトールを生活に取り入れている人の割合(国内)



3,000人を対象としたインターネット調査(ロッテ調べ)

食育体験者数



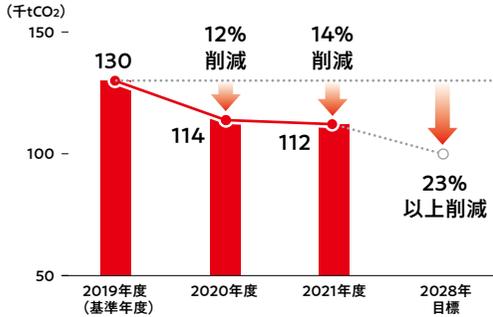
集計対象
株式会社ロッテ

ESG中期目標 実績ハイライト



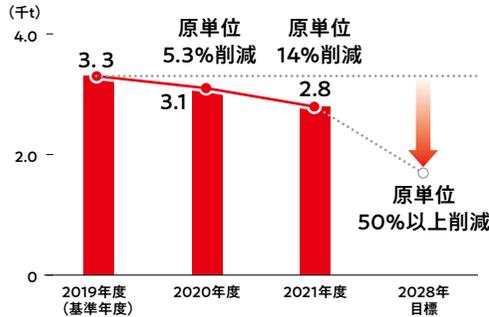
3. 環境

エネルギー起源CO2排出量 (Scope1,2) 削減率 (2019年度比)



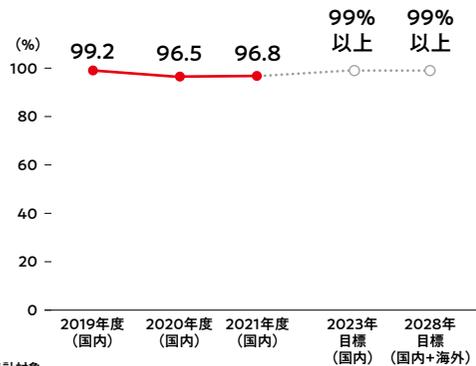
集計対象
国内：株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー
海外：主要な海外子会社 (THAI LOTTE CO., LTD., LOTTE VIETNAM CO., LTD., PT. LOTTE INDONESIA, LOTTE Wedel sp. z o.o.)

FLW (食品ロスおよび食品廃棄物) 発生量削減率 (2019年度比 原単位)



集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー、主要な海外子会社

生産工程から排出された廃棄物のリサイクル率

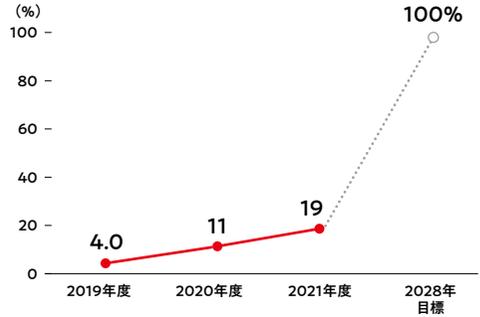


集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー



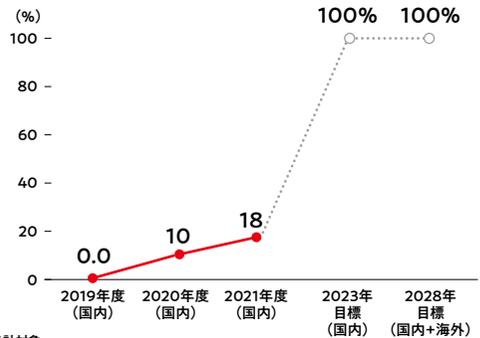
4. 持続可能な調達

フェアカкао使用率



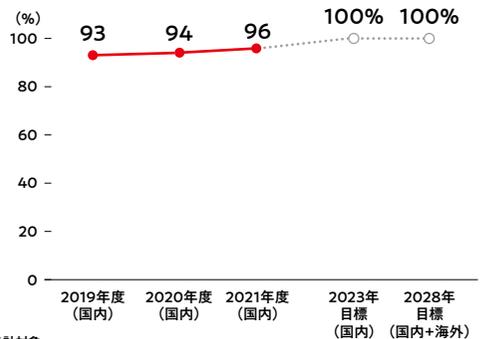
集計対象
株式会社ロッテ
豆の状態調達したカカオ豆の重量

第三者認証油使用率



集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー
油脂および油脂加工品に含まれるパーム油の重量
過去報告値に誤りがあったため見直しています。

環境に配慮した紙使用率 (容器包装)

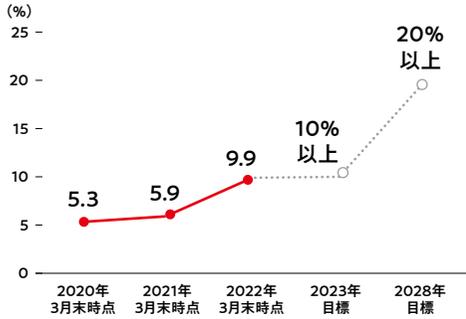


集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカムパニー



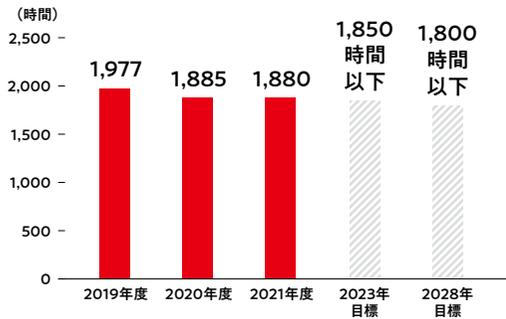
5. 従業員の能力発揮

女性管理職比率(国内)



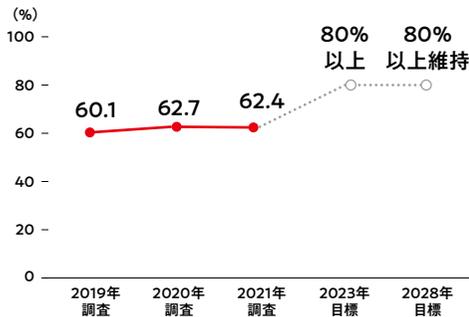
集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー
ただし、2022年3月末時点の実績にはDari K株式会社および株式会社銀座コーゼーコーナを含む。

一人当たり年間総労働時間(国内)



集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー

働きがいを感じている社員割合(国内)



集計対象
株式会社ロッテおよび株式会社メリーチョコレートカンパニー



フェアカカオ使用率の 目標変更について

2028年目標
100%



カカオ豆の生産地は農家の貧困や児童労働、森林破壊等、様々な課題を抱えています。チョコレートが主力製品である(株)ロッテにとって、カカオ豆の持続可能な調達には重要な課題であり、ESG中期目標の中でフェアカカオの使用率を設定して取り組みを進めてきました。この度、この取り組みをさらに加速させるために、目標の上方修正を行いました。2025年度までに主な調達先であるガーナから調達するカカオ豆のうちフェアカカオの割合を100%にすること、さらに2028年度までに全ての調達先から調達するカカオ豆のうちフェアカカオの割合を100%にすることを新たな目標に掲げました。

CO₂排出量削減目標の SBT認定の取得について

2028年目標
23%以上削減



(株)ロッテでは、2028年度までに主な温室効果ガスであるエネルギー起源CO₂排出量(Scope1、2)を2019年度比で23%以上削減することを目標に掲げています。この2028年度までの目標は2022年5月にSBT*認定を取得しました。

* SBT: 科学と整合した目標設定の略。パリ協定の水準に整合する温室効果ガス排出量削減目標のことで、SBTi (Science Based Targets initiative) によって目標を設定する企業の認定が行われている。



株式会社ロッテ サステナビリティコミュニケーションブック2022

会社情報

商号	株式会社ロッテ (LOTTE CO., LTD.)
本社所在地	東京都新宿区西新宿3-20-1
創業	1948年6月
資本金	2億1,700万円
決算期	3月31日
従業員数	2,491名
	7,356名 (海外拠点・グループ会社含む)
	(2022年3月31日現在、海外およびDari K(株)は2021年12月31日現在)

株式会社ロッテ サステナビリティデータブック2022のご案内

より詳細な非財務情報を掲載しておりますので、是非ご覧ください。
<https://www.lotte.co.jp/corporate/sustainability/report.html>



お口の恋人

LOTTE

www.lotte.co.jp
Printed in Japan